

十一月七日

朝九時過十勝の後藤さん来世田谷村。十一時半までスノーボード(十勝フィールド・カフェ)の打合わせ。このプロジェクトは女性スタッフだけで対応する事に決めている。十二月はじめに組立て開始の予定。十二時東洋農機に設計の基本的な考えを打ち込んで、とりあえずは一段落のつもり。農機具みたいなレストランができるの良いね。朝と昼メシを食べそびれ、十三時大学教室会議。空腹で倒れそう。他愛ないな人間の体なんて。M2ミーティング。明治通りコンバージョン少し動きそう。夕方世田谷村戻り。夜聖徳寺の件でクライアントと打合わせ。

十一月八日

朝八時過地下に降りる、暗い中に独人座ってポーツとしている。ベシーの菅原の気持ちかわからぬでもない。一人の至福と、誰か来ないかなあのストラグル。ポツリポツリとスタッフが来てお茶を飲む。そう言えば最近屋上菜園に上っていないなあ。今日は何の予定もない。頭を空白しておくチャンスだね。<sup>5</sup> 朝山邸の建設方法のアイデアがまつまりかかる。木造の幻庵にするつもり。午後大学。夜遅く高橋工業社長世田谷村に来る。九州<sup>4</sup> 住宅の鉄骨建方が一週間後始まる。

十一月九日

木蓮社の「伊豆の長八」入手。予想以上に良くまとまっついて、私には異常な位に懐しい本になってくれた。十年二十年後に読んでくれる人が居て、チョッとだけでも私達の仕事に驚いてくれればそれで良い。昨夜夕方鈴木博之さんから電話があつて藤井厚二の聴竹居になにか伊東忠太のモノがあるらしく、大山崎まで連れていってもらえる事になった。楽しみである。明日からしばらく関西だ。歴史家は独人で全て処する事が出来て本當にうらやましい。建築家にはどうしてもスタッフの問題がついて廻る。一人ではやり切れぬ事が多過ぎる。雑用処理係みたいなものだ。チャールズ・レニー・マッキントッシュのように一人でやり続けて倒れてしまうのも、私には出来ない。十四時茗荷谷筑波大学で江口先生と面会。沖縄でのワークショプの相談に乗ってもらう。十六時過星の子愛児園女性スタッフがメンテナンスしているのを観て厚生館へ。近藤理事長とお目にかかる。保母さん達とお茶を御一緒する。厚生館のプロジェクトに関して保母さん達の反応は、マアとまどつているというのが大勢である。一度保母さん達にガウデイの建築に関してのレクチャーをする必要がある。私の研究室の女性スタッフがガリボーン(巨大遊具)のメンテナンスを作業服着てやっているのは絵になっていた。この絵は社会性がある。なんとか社会に通じさせたい。

十一月十日

朝七時起床。四日程の小さな旅のパッキングをして九時過中央林間へ。公民館で森の学校建設の説明会。三〇名弱の住民が集まった。大方の人達の理解は得られるように思うが、数名の自然保護主義の方々から建設反対の意見が述べられた。十時四十分会場を出る。その後の議論の展開が気にはなつたが新横浜十一時三六

分の新幹線が指定されている。と、そんなこんな果てに、今新幹線のぞみでウツラウツラしている。関ヶ原周辺の山々、伊吹山系かな、にはうつすらと雪がふっている。

同車輦に三宅一生さんが居て、あいさつする。やはり同様に安藤忠雄の京都賞の会に出席するための京都行だそうだ。

十五時舞子発の高速バスを逃し、三〇分バス停でポーツとしていた。明石大橋を渡って淡路島へ。十五時五十分淡路夢舞台ウエスティングホテル着。栗林栄一君の結婚式はすでに始まっていたが、良いタイミングですべり込んだ。私は栄一君の親族代表という事で最後にアイサツをした。栄一はすでに両親共に他界しており、天涯孤独の身であり、それで縁の無い私がたまさかの附合いで親族代表という事になった。新郎四四才新婦四一才の決して若くはないカップルで、流石二〇代三〇代そこそこのガキの結婚式にはない落ち着きがあった。三十人程の本当に小さな会だったが大変良かった。新郎のスピーチもしみじみとこれまでの長かった一人子一人の人生を振り返り、何故か心を打つものがあった。私もつられてアイサツでは珍しく口ごもり、思わず落涙寸前までつまる有様であぶなかった。まだ甘い俺は。体が弱っているのか最近は少し情にもろ過ぎる我ながら。何故こんなにもろくなっているのか考えなくてはならない。これではフーテンの寅さんじゃないか。十八時過結婚式のパーティ修了。エントランス・ロビーに出ると山田脩二がやっぱり姿を現わした。久し振りに会う友である。イタリア式に抱き合ってやろうかとも思ったが、やはりそんな事はせず、ヨウと言った。脩ちゃんは全然年を取らない男だ。車で津井の山田修二宅へ。二三時過までいろりを囲んで飲む。友人達が死んだり、倒れたりが続いているので二人でさしで飲むのも妙にリアルな情感があって照れた。しかし、会える時に会える

人間には会っておこう。どうやら最近の私は増々人間への感が高まり、モノや自然への気持が急速にうすくなっている。二十四時タクシーでホテルに戻る。明日は十四時に京都駅一階中央改札口で鈴木博之と会う。

十一月十一日

淡路島の安藤忠雄設計のホテルで目をさます。今日は佐藤健の誕生日だ。良く六十歳まで生きてくれた。しかしどうも我ながらセンチになっっている最近は。どうにかしたい。十三時過京都市ドングラガンの吹抜のカフェテリアで休む。原さんはこの駅の設定で何を本当にやりたかったのか今でも理解できない。灰色の娯楽主義的建築だ。経済至上の価値観がグレーに塗られた鉄骨で隠されている。原さんの本来的な楽天主義が露出している建築だ。楽天主義というのは万年青年主義みたいな事で決して成熟しない。十四時前中央改札口で鈴木さんと会う。彼とも久し振りだった。山崎の藤井厚二の聴竹居へ。妙喜庵の左の踏切を渡ってかなりきつい坂道を登る。紅葉が美しい。聴竹居に今住まわれている高橋功さんに案内していただく。鈴木さんは聴竹居はもう何度も訪れていて、今回は玄関前に在る小さな石彫の調査のための訪問である。この石彫は伊藤忠太デザインのものと言う。ガルーダらしきヒンズーの神らしきが小振りな石に彫られている。伊藤忠太の変人振りが良くわかるモノだ。鈴木さんはスケッチに寸法等を書き込む。

私は聴竹居は恥ずかしながら初めてで、良い季節に連れてきて頂いた。モミジが美しく、その色と古い建築の色彩の対比が良かった。小能林宏城が彼の長屋で藤井厚二論を書いていたのを思い起こした。その論の詳細を思い起すことはできぬが、川合健二ま

で引き合いに出して総合、全体ということ論じていた記憶がある。初見での聴竹居の印象は、すでに時が経ち一般の木造建築の寿命ということもあり、私には私生活の工夫の集積だという極めて縮み目の印象であった。ただその空間が所謂木造民家風のモノではなく、空間が意識されかかっていると考えられる程に良かった。グラスゴー派の影響が色濃いのも驚きだった。ツルの香炉花瓶、特製の冷蔵庫などが面白かった。しかし、何よりも聴竹居内の空間の暗さが印象的であった。日本の伝統建築、民家、寺院の暗さでもなく、今風の住宅の明るさでもない。その挟間の暗さがあるのだ。妙に近代的でしかも非近代的に暗いのである。もう一度来なければならぬコレワ。安藤忠雄のアサヒビールの美術館は月曜休館であった。

十六時前京都に戻る。鈴木さんを百万遍の梁山泊に案内する。店主橋本憲一に再会。少し酔って眠ったりで失礼した。二十二時頃宝ヶ池プリンスホテル投宿。昨夜の山田脩二といい鈴木博之、橋本憲一と古くからの友人を渡り歩く旅になっている。まだ振り返る年ではないぞ。

十一月十二日

宝ヶ池で目をさます。今日は一日安藤忠雄の京都賞受賞に附合うことになる。祝い事だ。失礼のない様にしたい。朝「室内」山本夏彦追悼文書く。十一時前京都国際会議場。十一時パネリスト打ち合わせ。十二時安藤高階鈴木石山昼食。十三時文化庁長官河合雄氏を交えたシンポジウム開始。千名をこえる参加者。安藤人気は神話の域に近附いている。十七時半シンポジウム修了。プリンスホテルに戻り、鈴木さんとメシを喰いに出る。三条京阪辺りで食事。二〇時頃東京へ帰る鈴木さんを送り、百万遍に橋本を

再訪する。橋本憲一と祇園の小料理屋で遊ぶ。女子大生アルバイトの芸者まがいが居て白ける。二十二時過、飲んでも面白くなく打上げる。橋本憲一は津野海太郎とようやく電話で話せて上々の機嫌となる。私もちよつと心配していたので良かった。二十三時過宝ヶ池プリンスホテルに戻る。

十一月十三日

三日目の宝ヶ池で目ざめる。七時半。薄日が京都国際会議場の方から指している。丹下健三門下の大谷幸夫設計の会議場とこのプリンスホテルは村野藤吾の設計である、好対照だな。会議場は建築の理屈で固められ、プリンスホテルは商業の力がそれを包み隠している。安藤忠雄の建築はその双方がそぎ落とされて、むしろ生活の大常識、当たり前の生活の価値観が溢れている。昨日のシンポジウムで私は安藤を明治維新前の日本人の当たり前さをこれこそ歴史的なスケールで身につけていると述べたのだが、それは山本夏彦さんの日本人ニセ毛唐論の影響で、安藤は大方の日本人のニセ毛唐論振りとは違つたと述べたのだ。江戸の大棟梁より、昔にさかのぼるかも知れない。秀吉時代の堺の大商人達の面影もあるようだし、あるいは彼こそ利休の再現なのかも知れぬ位だ。安藤人気の神話化はすでに大きな事件の域に達している。

私はかくの如き神話とは程遠いところに居るな。それはハツキリと自覚しておこう。安藤忠雄はニセ毛唐化した日本人がその集団の直観で作あげた英雄だ。民衆（これも死語だなすでに）己らの中に失くしてしまつた神話そのものを安藤の中に幻視しようとしているのだ。しかし、民衆は時に残酷だからな。鈴木博之の評、何だか行基菩薩みたいになつてきているはそれを言っている。安藤さんが白い花を何万本も植えたり、中坊公平と瀬戸内の島々

にオリーブの樹やどんぐりの木を植えたり運動は、本当に大昔  
だったら行基、空海がやっていたような事だろう。社会事業家と  
しての安藤忠雄の側面である。彼の未来は未知の部分がまだ大き  
いと感じた。

今日は夕方東京へ戻り、伊東さんのお祝の宴に出る。他人の祝  
い事に連続して附合うのも大変だよ。地下のスタッフはきちんと  
やってくれているだろうか。九時過に電話してみよう。

今十二時半くらいかな。西本願寺龍谷大学キャンパスに居る。  
上山学長面会までだいぶ時間がある。ベンチで昼寝でもしようか。  
十三時十五分上山大峻龍谷大学長にお目にかかる。すぐ学内を案  
内して下さる。重文の名建築ばかりのキャンパスだ。西本願寺境  
内も連れ廻していた。日本最古の能舞台等興味深いものが  
多い。飛雲閣も見せていただいた。詳細を見ていないが、やはり  
この建築は面白い。軽妙で自由極る。安土桃山の軽妙さは持つて  
まわったところが無くって本当に良いな。美しいちよりの樹が  
処々にあり見事な風景を作り出している。日本フィンランドデザ  
イン協会の二〇〇三年秋のシンポジウム会場は西本願寺にしよう  
と決心した。フィンランドと連如か。

上山学長に送っていただき、十五時過ののぞみで東京へ。四日  
間の小旅行は終わろうとしている。夕刻東京着。伊東さんのお祝  
い会へ出席する為神田神保町へ。少々早く着き過ぎたので小学館  
下の喫茶店で休む。実生活が夢とうつつの狭間を漂よい出したら  
どうなるのだろうか。

十九時前徳亭伊東豊雄ヴェネチアピエンナーレ受賞の会。隈研  
吾小嶋一浩もそれぞれ受賞しているので、まとめて祝う。石井和  
紘山本理顕妹島和世出席。二十二時過修了。世田谷へ戻る。二十  
三時半帰着。流石に疲れた。スタッフ誰も居らず。マア仕方ネエ

か。